

第3回 清瀬市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者懇談会 会議録

日 時：令和元年 10 月 9 日（水）18:30～20:15

場 所：男女共同参画センター 会議室 1・2

出席者：①委員 7 名

芦澤毅士委員、岩崎玲子委員、小俣みどり委員、春原孝之委員、西村真委員、星野泉委員、松村俊夫委員（五十音順）

②事務局 6 名

企画部長、企画課長、企画調整担当職員 4 名

欠席者：無し

《次第》

1. 開会
2. 報告事項（事務局） 前回議事録（案）の確認
3. 協議事項 まち・ひと・しごと創生総合戦略／庁内評価シートについて
4. その他

《配布資料》

資料 1 : 前回議事録（案）

資料 2 : 庁内評価シート・予算決算額

《審議経過》

1. 開会 座長が進行。
2. 報告事項
 - 第 2 回懇談会の議事録について、内容の確認を実施。確認する期間が短かったことから、意見があれば、後日連絡いただくよう依頼。修正後、後日、清瀬市 HP にアップすることとする。
3. 協議事項
 - 本日は、「基本目標Ⅱ」「基本目標Ⅲ」「基本目標Ⅳ」に関する今後の方向性、庁内評価に関する意見を協議させていただく。
 - (1) 「基本目標Ⅱについて」
 - 創業支援に関して、「敷居を下げた」取り組みは興味がある。空き家を活用したシェアキッチンなど小商いができるようなビジネスモデルが

- 該当する。チャレンジする場の提供といった取り組みがあってもよい。
- 清瀬市では若い女性の転出を抑制するための取り組みの方向性を検討するため、アンケートを実施した。女性の帰属意識を高めていくうえで、女性自身が存在意義を高めることで帰属意識が高まることにつながるという調査結果が出ている。それを踏まえて、女性の創業支援を国の補助金で実施しており、創業支援に関するセミナー開催等で活用している。スモールスタートで、女性取り組みやすい範囲で進めてもらい、最終的には収入を得ることにつながるよう取り組んでいる。なお、サッカー場を活用して女性が活躍する取り組みに関しては、難しいと認識している。
 - コワーキングスペースについては、実現可能性を調査しながら検討しているが、事業性の確保が難しいと聞いており、自走できるか研究しているところ。場所の問題もあるが、現状では、商工会にて空き店舗情報を公開いただいております、創業希望者への情報提供は行っている。
 - 女性の起業については、場所や立ち上げ資金で躓いていることが多い。また、子育て中の人については、保育に関する問題もある。現状、セミナー等での支援はありがたいが、さらに、場所や資金などもフォローすることが、女性起業につながると思う。
 - 市では、経済的な支援は難しいため、それに代わるものとして、稼ぐ力を身につけることを支援する取り組みを進めている。なお、場所のニーズは把握しており、コワーキングスペースを検討しているが、自走できるか研究を進めている状況。
 - 空き店舗の活用について評価が低い理由は、空き店舗を活用するアイデアを募り地域活性を図る目標としていたが、空き店舗情報の公開のみにとどまっているためである。
 - 現状、空き店舗は3件のみ商工会HPで公開しているが、情報の吸い上げが不十分で仕組みが作れていない。また、家賃補助などの支援策も検討できていないため、今後、商工会としても検討課題だと認識している。
 - 消費生活センターは立地が良いので、起業支援のスペースに活用できないか検討してみたい。
 - 一人親の雇用を作ることは大変だが、必要はある。それによって、児童扶養手当などの削減などにつながる可能性も考えられる。ただ、初期投資に関して、場所の提供などのサポートがあるとよい。
 - 銀行内でも女性のテレワークオフィスの需要もあり、銀行内に行員用のテレワークスペースを作っている支店もある。大企業においても同様のニーズもあり、今後増えていく可能性もある。

- 企業のテレワークスペースは、市でも調査しているが、清瀬は地理的に田舎すぎず都会でもない中途半端な位置にあると認識している。ただ、西武線沿線でテレワークスペースはあまり無いため、清瀬で始めたいと考えている。ただ、永続的に税金を投入することも厳しく、企業とタイアップして、数年後に自走してもらえることを目標としているが、相手が見つからない。また、各市役所を間借りしてテレワークを実施したという話題もでてきている。
 - 清瀬市の理想のまちをレゴで表現するワークショップを実施し、多数の親子に参加いただいた。清瀬市の良さとして、緑、自然が多いこと、子育てにやさしいまち、小さな祭りが多いことなどが挙げられた一方で、人が集まる場所がない、道が狭いなどの意見もあった。評価については、今後まとめるので、まちづくり等に活用する予定。
 - ワークショップのチラシを配布する場所としては、学校、学童、保育園、円卓などがどこかに所属している人が中心だったようだが、0～2歳の保育園などどこにも所属していない人は、つどいの広場やNPOなどを活用すると効果がある。
 - コミュニティ醸成の仕掛けを考えていかななくてはいけない。
 - 昔から言われている清瀬の良さについて、他者へ推奨するのに自信が持っていないという市民アンケート結果がある。他者推奨を行えるような気持ちを持たせる仕掛けが必要。例えば、金山緑地は、軽井沢と同じくらい多種多様な野鳥が見られるということなどは、清瀬市の良さとして他者に推奨できると思う。
 - ワークショップでは、若い世代の理想としては、「目指せ中央線」という話があり、駅の周りに便利な建物があるという状況が望ましいという結果が出ている。ただ、清瀬の良さは、便利さではなく、自然が多いことであり、清瀬市の住みやすさは、そこに直結しており、その点を活かす方針がよい。
 - 椅子のあるまちも、駅前ではなく、ちょっと離れた場所、パン屋の隣や自然の近くなどに椅子があるまちづくりが良いと思う。
 - ハード面では制約があるが、ソフト面は異なるので、他者推奨できるという自信をつけさせるなどの認識の転換は、必要だと思う。
- (2)「基本目標Ⅲについて」
- 西東京市のイベントで、映像を作る無料講座があり、受講者がチームになって映像を作るという企画があった。近隣市での魅力を伝える映像を作っており、西東京市のこもれびホールで発表が行われていた。市の魅力を伝える機会として、非常に良いと思った。市のアピール映像を公募

する施策を実施してはどうか。自分の作品を見てもらいたいと思う人はいると思うので、HP に載せるなどのインセンティブがあると効果がある。また、それが起業につながる可能性もある。

- 市の魅力を発信するプロモーションとして、SNS などを行っている人と連携できないかと模索している状況。また、HP リニューアルを予定しており、SNS との連携がしやすいシステムを入れるという準備をしている。市民と協働でできる取り組みは、引き続き検討したい。
- 平塚市でインスタのコンテストを行っていた。撮影した写真が市の広告になる等のインセンティブがあった。また、#（ハッシュタグ）は継続されるので、コンテスト終了後も自然と広がりがあった。
- 清瀬市基本理念の「手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬」というキャッチフレーズを使って、写真投稿など施策を検討してもよいのではないか。

(3)「基本目標Ⅳ」について

- 介護サポートに関する会議で、総合支援の取り組みで住民の力を借りて、生活支援を行う必要があるとの話があった。ボランティアだけでは限界があるため、年代が上の人に対して、対価を払いつつという仕組みが必要だと思った。最初の仕組み作りが重要。
- 公共施設再編については、近隣市と同様に、民間の力を積極的に活用する必要がある。
- 地域市民センターは、場所の問題はあるが、人が集う場所になっている。JA が実施している移動販売には、人が集まっている。買い物が目的かもしれないが、交流の場になっている。そういった場所に、ちょっとした軽食ができる環境を準備できることが望ましい。地域市民センターに求められるのは、貸会議室だけでなく、老人などが集えるオープンスペースも必要がある。老人が増える中で、孤独死なども増える可能性もあり、交流の場を持つことも必要。オープンスペースは、多世代交流の場になるはず。
- 元気なお年寄りに活躍してもらうことも検討していくべき。
- 事業継承に関して、商工会では、マッチング等は実施しているところ。

4. その他

- 次回の日程・場所について連絡。
- 次回は、第2回、3回のご意見を集約した資料を事務局が準備し、会議体で確認いただくことを想定している。

以上